

# 市民文芸

## 歌壇

岩崎 聰之介 選

植え終えて安堵し畔に立つ人の腰の手拭いに  
五月の風ふく 後藤今斬雄  
重麻色に染めてみようか己が髪憶する心断ち  
切るために 寺崎 悦子  
見上ぐれば小梅いっばいに実をつけて雨上り  
の夕べ小鳥休まず 鎌田ねい子  
汗ぬぐい小さな庭の草を取るあの頃みたいに  
は仕事はかどらず 遠藤 舞  
記念樹に花芽つきをり八年目実るを見たら  
う腕白ぼうず 遠藤 行夫  
遠き昔しじみ取り合ひし水路時代変はりて  
整備されて居り 八嶋 正子  
今日は何か良いことあるらしイケメンのタク  
シーに乗り病院へ行く 山田 濱  
季節感楽しみながら今朝も又われが日課そ畑  
めぐりする 佐藤キワ子  
目を閉ちてアカシアの揺るる故郷のほのかな  
る香りなつかしみをり 荒木喜代子  
緑濃き山のまなかの水の木なり白き花ばなき  
わだちて見ゆ 平間 久子

## 俳壇

遠藤 秋尾 選

これがまあ花かと思ふ棕櫚咲けり 岩澤 伍峯  
万緑や空より拝す富士の山 高子うこん  
万緑の稲荷の参道赤鳥居 岩松 隆志  
朝虹は雨の前触れ雲かかる 遠藤 忠臣  
夏が来て流るる水もやわらかく 遠藤 舞

## 柳壇

四電 英夫 選

歩かねば歩けなくなる梅雨の空 制野 リエ  
早起きの庭清々し薔薇香る 阿部はぎの  
水子にもそつと供へる柏餅 寺崎 悦子  
なほざりの庭に牡丹のみこと咲く 福原 峯子  
捨苗を踏みて近道走り雨 斎藤 典子

【評】一句目、棕櫚の花は5月に咲く。案外成長が早く、頂上に黄白粒の小花が咲く。気が付かずにいた花に感動。  
二句目、空から見える富士の山。万緑の山々を従える日本一の山を飛行機の窓から拝む。日本人の心であろう。  
三句目、この作品も「万緑」の作品である。幾基も立てられた新旧大小の真つ赤な鳥居と、緑濃き風景が見える作品。  
八句目、「水子に供へたる柏餅」は、心温まる句。

健康器あれもこれもと買った無駄 草野 清  
衣更え街全体が白くなり 斎藤 典子  
勿体無いそれがメタボの腹にする 水戸 光穂  
絢爛の薔薇の自惚れ刺を切る 阿部はぎの  
甲高き敦公の声駆け抜ける 寺崎 悦子  
ウグイスが今朝も私を起こしてる 佐藤 啓子  
集積所困塊世代のたちばなし 遠藤 行夫  
嫁不足過疎の村まで国際化 山田 風流  
子が育ちひとりふたりと減る家族 平間 大恵  
友逝きて心の穴を埋められず 宗像 孝喜

【評】一句目、健康器具や健康食品などの宣伝はおびただしい。諷刺文句につられ、つい欲しくなる。買っただけで健康になれる器具はないものか？  
二句目、衣更えとともに、ワイシャツ、ブラウスなど装いが変わり、街が明るくなったようだ。クールビズとスタミナ料理で夏乗り切ろう。  
三句目、「食べ物粗末にしてはいけない」と教わってきた。お米は八十八度の手がかかると言われる。今では「八十八度の金かかる」と言う人もいて。

## 風間市長の風のことば

### 「情報」

市から市民の皆さんに情報を提供する手段としては、広報紙やホームページ、パンフレット、小冊子、チラシ、回覧板などがあります。

特に、この月刊の「広報しろいし」は、市が市民の皆さんに知らせたいテーマを掘り下げた記事や、皆さんから要望のあった案件を取り上げ、特集として掲載しています。文章表現においても、イラストや写真などを取り入れ、やさしく・わかりやすい言葉で表現するとともに、難しい漢字にはふりがなを付けるなどの配慮をしています。また、市の施策や事業に関するお知らせ記事と、その時々々のタイムリーな特集記事のバランスを考えながら、紙面を通じて市民の皆さんとの対話を図り、親しまれる広報紙を目指しながら発行しています。

「しかし、行政側が「伝えたい」情報と市民が「知りたい」情報に、ギャップがみられたりすることや、色使いやレイアウトが年齢層によって読みやすさを感じたり、読みにくく感じたりするなど、さまざまなことに配慮することが、これからの課題であろうと感じています。」

「情報」の効果的なのか？とも悩んでいることだと思います。それが商業上のものであればなおさらです。そのことよって来店者数や経済活動にまで大きく影響しますし、その活用媒体により経費が違ってきますから思案のしどころです。発信側は、PRすることによりこの情報を大いに活用してもらい、生きたものと思っていますし、役立てて欲しいと願っているものです。



▲6月26日、北保育園児と一緒に芝生を植えました(10ページに関連記事掲載)

「広報しろいし」は、市と市民の皆さんの情報共有の架け橋です。日常の井戸端会議や茶飲み話のネタなどとして、また、市政に参加する情報源として、これからも身近に置いて活用いただきたいと願っています。そして、皆さんに愛される広報紙をつくり、お届けするように今後も努力して参りますので、お気付きの点がありましたら何なりとご連絡ください。今月はお盆の月です。各地から帰省してくる人が多く見られます。どうぞ皆さんも、その方々とお会いしお互いの情報交換してください。さらにご先祖さまとも心の中でお話してください。

## まちの話題

～あの日、あの時～

### 地域全体で福祉を支える えんじゅ 13周年開所式典

6月16日、特別養護老人ホーム「えんじゅ」で13周年を記念する開所式が行われ、施設の入所者や家族など約110人が参加しました。

オープニングでは、ひかり幼稚園の園児約30人が歌やお遊戯を披露。「幸せなら手をたたこう」などを入所者と一緒に歌いました。また、白石芸能ボランティアの皆さんが斎太郎節などおなじみの歌や踊りで盛り上げ、最後に、仙南地域広域行政事務組合の消防音楽隊の皆さんが、水戸黄門や美空ひばりの曲などを演奏し、参加した皆さんは楽しいひとときを過ごしました。

藤本邦夫施設長は、「昨年は新型インフルエンザの影響で、ご家族には面会の制限などご迷惑を掛けました。今後、入所者もご家族も楽しく過ごせる催しを行って

きたいです」と話しました。子どもから大人まで地域全体で福祉を支えることが、より一層大切となっています。



▲お祝いの食事と一緒に、消防音楽隊の演奏を楽しみました



## 国際コーナー

### International Corner

#### 「ジャガイモから学ぶマナー」

海外に行くと、本当に小さくて細かいようなことにもビックリしてしまいます。今月は「ジャガイモ」が主役です！

まず、「ポテトチップス」です。友達と家でパーティーをするときや、家族とテレビを見るときに食べるポテトチップス。皆さんは袋をどこから開けますか？ オーストラリアではどんなに人が集まっても、必ず袋の上の部分から開けます。そして、袋のまま家族や友達に渡し、袋からポテトチップスを取って食べます。(一瞬ですが)袋を持っている人にとって、全部自分の物であるかのようにつかんで食べることができます。ただ、寂しいことですが、次の人に回すときが来ます。自分の番が来ることを待つのが普通です。「おい、おまえ！食べ過ぎじゃない！」といった口論も少なくありません。面白いでしょう？

日本に来て、袋を真ん中から開いて皿に載ったような形にして、テーブルに置いてみんなが好きときに気楽につかむ姿を見て、「なるほど！ こういうやり方もあるんだ！すごい！」と思いました(最後に少しだけ残

すあたりは「さすが、ジャパ」と思います！)。

しかし、ジャガイモの面白い話はこれで終わりではありません。居酒屋やファミレスに行ったとき、ほとんどのお店のメニューにある「フライドポテト」。実は、オーストラリアではこの言葉が通じません。フライドポテトは「チップス」と呼びます。有名な料理に「フィッシュアンドチップス」というのがあり、これは揚げた魚とフライドポテトです。マクドナルドの場合は、フレンチフライズか、ただのフライズと名付けられています。

ケンタッキーフライドチキンが全店舗をKFCという表示に変えました。原因は、「フライド」という言葉には不健康なニュアンスがあるためです。健康を意識するお客さんが増えている近年、KFCの売上げが減ったと言われています。

最後に、個人的な「こだわり」を教えます。小さいころから、マクドナルドのポテトをソフトクリームかシェイクに付けて食べてきました！予想外に、かなりおいしいですよ！白石の友達に勧めたら、「すごい！ サツマイモみたい！」と言われ、結構好評でした。